



宇和島城通信

10

2018.3



宇和島城では式部丸跡と本丸跡の2つの場所で工事を実施しています。

式部丸跡の工事は3月末で完了、4月からこの場所を公開できる運びとなりました。本丸については今年の秋ごろまで工事がかかる見込みです。

今回はこの2つの工事について、調査でわかった成果や進捗状況を紹介します。

【上の写真】式部丸跡で一番危険な場所だった入口の石垣修理・復元工事が完了した写真です。上段と下段の2段の石垣がありますが、上段の石垣については、もともとあった形のまま、積み直しました。下段の石垣については、江戸時代の石垣がほとんど失われていたため、復元的に石垣を積みました。それから下段の石垣の両側にあるシートは斜面を緑化するシートです。

【左の写真】本丸跡の台風災害で崩落した斜面に、これ以上の崩落がおこらないよう、鉄筋を打ち込んであとに、樹脂製のパネルを取り付けている写真です。本丸跡の工事は現代工法と在来工法のハイブリット工法で進めています。

■ 式部丸跡と本丸跡の工事について



宇和島城下絵図屏風 部分 元禄6～8 (1693～95) 年頃
〔宇和島市立伊達博物館 蔵〕 ※赤が本丸跡、黄色が式部丸跡の工事場所



宇和島御城下絵図 部分 元禄16 (1703) 年
〔公益財団法人 宇和島伊達文化保存会 蔵〕

◆ 式部丸は謎の郭！？

式部丸は城内の他の郭と大きく異なっていることが2点あります。まず1点目として櫓や門が1棟も建造されていないこと、そして2点目として、江戸時代の絵図では郭として認識されず、林のように描かれることが多かったということです。

◆ 宇和島伊達家家臣「山崎式部」と式部丸

絵図の赤丸には“山崎式部”とあります。山崎式部は寛永15年(1638)から万治2年(1659)まで代右衛門丸に配され、その10年後の寛文9(1669)年には城普請大奉行に任じられます。式部丸は、このどちらかの時期に造られ、山崎式部にちなんで名付けられたと考えています。

しかし、この頃は武家諸法度の発令で城の改修への幕府の目が厳しくなっていたため、櫓や門は建てず、絵図にも明確に記さなかったのではないかと推測しています。

平成23年に実施した発掘調査では地表約1m下の地点から、伊達家家紋の九曜文をあしらった瓦が出土しています。伊達家による造成を裏付ける考古資料となります。



宇和島城下絵図 部分 承応3 (1654) 年〔伊予史談会 蔵〕

◆ 虎口(入り口)の調査と整備

式部丸は、虎口周辺の石垣が危険だったためか、昭和の頃から封鎖されていました。平成18年に調査開始、平成30年に整備が完了しました。調査の結果、17世紀初め頃に2段構造の石垣が築かれ、その後、上段の根石固めとして岩盤の落ち込みに沿うようにV字状に築かれていた下段が岩盤ごと崩落、再築されないまま、上段が危険な状態となったと考えています。

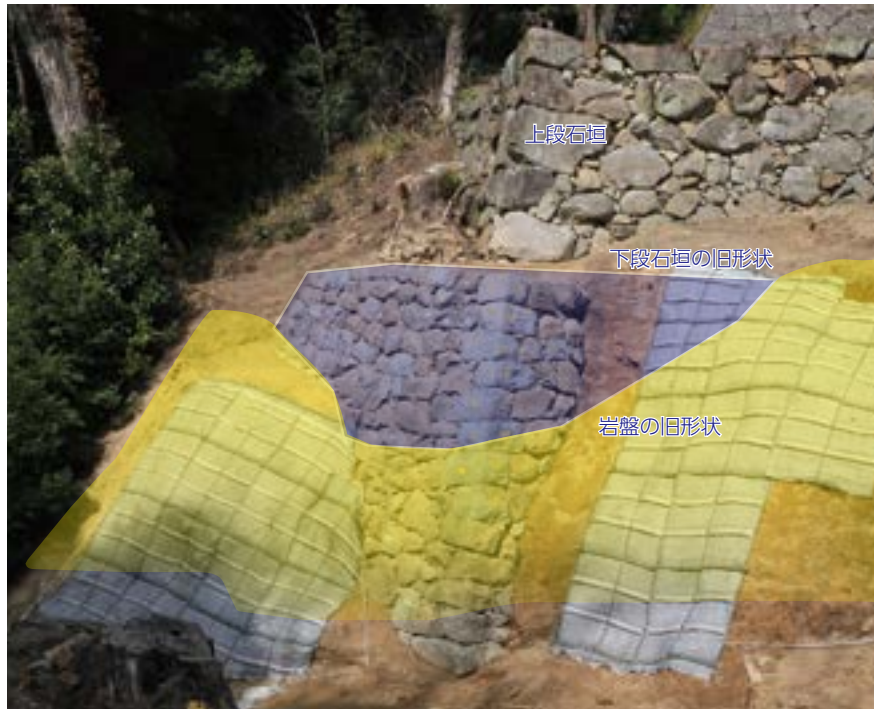
整備は、岩盤崩落部分に平成の改修として、最小限の新規石垣を築き、根石の一部しか残っていなかった下段石垣を修築、上段石垣は旧形状通りに積み直しました。



式部丸跡の入り口（虎口）の着手前



式部丸跡の虎口の発掘調査時の様子



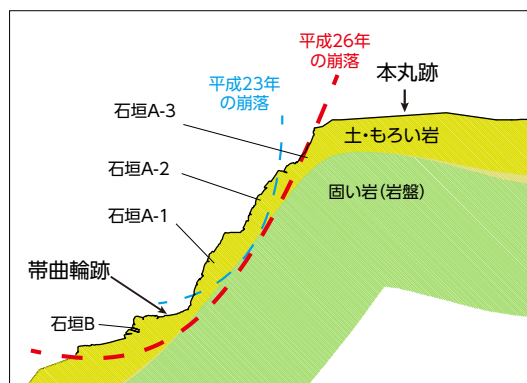
式部丸跡の虎口の平成の修理工事と江戸時代の形状との比較イメージ

◆ 本丸跡の災害場所は江戸時代から何度も崩れていた

平成23年と平成26年の2回にわたって、台風などの大雨によって崩れました。昨年からは本格的に工事に取りかかり、現在崩落した土砂や石垣の石材を撤去、整理まで完了しています。

現在、崩落土砂を取り除いたあとから新たに江戸時代の石垣や水路が見つかっています。それらは石垣が崩れた上や崩れそうになった所の前に石垣が築かれていて（下図の石垣A-0）、江戸時代から苦労して、何度も修理した様子が伺えます。

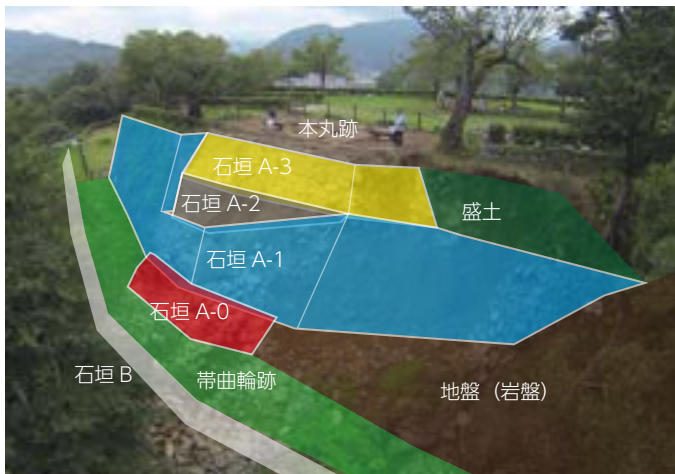
今までの調査成果をまとめていくと、この場所の石垣は江戸時代の終わりごろは、2段ないし4段の複雑な構造となっていたことが分かり、現在その形状に復旧できるよう準備を進めています。



断面図と地質調査図からの崩落イメージ

◆ 伝統工法と現代工法のハイブリッド工法

今回の災害復旧工事現場については、江戸時代からつづく水の流れ道があったり、不安定な土砂がたまっていたり、石垣の地盤が崩れたり、伝統的工法では克服できない状況がありました。これらの問題に学識経験者の先生方や文化庁の指導を仰ぎながら、最小限の範囲で2つの現代工法を採用することとしました。一つは表紙写真にあった鉄筋挿入と樹脂板による斜面の土砂止め工です。これは石垣A-3の地盤や裏側にある土を止めます。もう一つは樹脂網と金網のなかに土砂をつき固める補強土壁工です。これは崩れた地盤の復旧に採用します。石垣は伝統的な工法で積み上げ予定です。



平成26年の崩落時写真と幕末の石垣などの模式図

お城・お知らせ・瓦版

◆ 作事所跡（JT宇和島営業所跡地）の第1次発掘調査終了しました！

昨年の9月から約4ヶ月間、522㎡と当市の発掘調査では最大規模の調査となりました。作事所は藩の大工・大工仕事にかかわる物事を統括する作事奉役所・作業所となる場所ですが、江戸時代の絵図面でも作業している大工職人や作業小屋が描かれています。今回の調査でも、それらの建物跡が出土すると考えていましたが、8つの鍛冶作業の跡や、1つの池（プール）の跡と予想外のものが発見され、今から出土品の調査と合わせて、作事所の機能を改めて検証する必要が出てきました。



近現代の学校の石基礎が出土、櫓顔負けの立派さでした



釘などの鉄製品を作る鍛冶作業の跡として、焼土や炭などが出土



中央の石の列が護岸となる、江戸時代の池ができました

◆ VR宇和島城、配信してます！！

スマートフォン（多機能携帯電話）やタブレット端末などに対応した、観光アプリケーション「VR宇和島城-よみがえる伊達な城-」が2月28日(水)に配信開始となりました。今のところアンドロイド端末のみ提供となっていますが、アイフォンやアイパッドでも利用できるよう手続きを進めています。

このアプリケーションでは、最新の技術と調査成果を用いて、宇和島城本丸から見た、昔の櫓や門、そして城下の町並みを再現、体感することができます。それから、現代マップに古地図を重ねて表示したり、追手門跡地などの城内や周辺の旧跡の解説文を読んだりすることができます。そして天守前では、なんと、幻の慶長天守復元体験や伊達政宗・秀宗・宗城との記念撮影が出来るなど、楽しめる要素も盛りだくさんです。

VR:Virtual Reality (バーチャル・リアリティ) の略。コンピューターグラフィック(CG) で描かれる仮想空間。

三之丸御殿や城内の櫓や門の復元にこの技術が利用されています。

AR:Augmented Reality:(オーグメント・リアリティ)の略。拡張現実といいますが、現実の空間にCGで描かれたものが出てきます。藩主たちとの記念撮影などはこの技術を利用しています。



古絵図モードは江戸時代にどうなっていたのかが分かって楽しいです♪



精巧なCGで描かれた三之丸御殿の復元。現在の宇和島消防署から宇和島郵便局の辺りには、こんな立派な建物が立ち並んでいました。江戸時代の資料をもとにしていますが、3次元の復元は今回が初です！

■ 問合せ先

教育委員会 文化・スポーツ課 文化財保護係 【Tel】 49-7033 【Fax】 22-5058 【Mail】 bunka@city.uwajima.lg.jp